

寅さん歩 その 16

お江戸の 時の鐘-1



平野 武宏

お江戸の「時の鐘」はウォーキング例会やイベントでいくつか、訪れていますが、いずれも主役として見ていませんでした。東京都ウォーキング協会で「時の鐘めぐり」が企画されたので、参加しました。説明内容は現地の説明板を優先し、配布資料と図書館で見つけた吉村弘氏著「大江戸時の鐘音歩記」で一部補足しています。

最寄り駅は代表例です。

〔時の鐘の生い立ち〕

現代のような時計など普及していなかった江戸時代、市内の各所には時刻を知らせるための「時の鐘」があったそうです。寛延3年（1750年）の「時の鐘」の調査では10か所が幕府公認のものとして、あげられています。

時の鐘は寺の勤行の合図の鐘と区別するため、「捨て鐘」といわれる予告を知らせるために、最初に3回撞き、続けて時刻の数を撞くスタイルがとられたとのこと。（六つ時なら、3打のあと6打）、（京阪地区の捨て鐘は1打とか）江戸時代の初め、江戸城内の西の丸で時を知らせる鐘を鳴らしていました。主に勤務時間管理が目的だったようです。家康の頃は夜明けの「明け六つ」（午前六時）と日暮れの「暮れ六つ」（午後六時）の2回でしたが、二代秀忠の時代になると昼夜にわたり2時間ごとに鳴らされるようになり、御座所に近いので、太鼓に変えられました。

江戸城内で鐘撞役をしていた辻源七が寛永3年（1626年）日本橋本石町3丁目に約200坪の土地を拝領し、鐘撞堂を建て新たに鐘を鑄造、「時の鐘」を知らせる仕事を開始しました。これが江戸で最初の「時の鐘」とされています。鐘の聞こえる範囲の町々からは「鐘役銭」を徴収する権利をもらい、維持費にしていたとのこと。

明治時代に「時の鐘」は廃止されましたが、鐘が現存し、今日でも打ち続けられている鐘があるそうです。

該当する鐘をめぐった際に紹介します。

[日本橋石町 時の鐘]

中央区日本橋室町 4-5、本町 4-2 の地域

最寄駅 JR 新日本橋駅

残念ながら、現地には「石町時の鐘 鐘撞堂跡地」の説明板のみがあります。説明板には『時の鐘は江戸時代に本石町 3 丁目へ設置され、時刻を江戸市民に知らせる時鐘です。徳川家康と共に江戸に来た辻源七が鐘つき役に任命され、代々その役を務めました。鐘は何回か鋳直されましたが、鐘撞堂は度々の火災に遭いながら、本石町 3 丁目辺りにあり、本通りから本石町 3 丁目に入り、鐘撞堂にいたる道を「鐘つき新道」と呼んでいました。



宝永 8 年 (1711 年) に制作された時の鐘が十思 (じっし) 公園内に移されて残っています。そのことにより、時の鐘が移された十思公園までの道が平成 14 年 (2002 年) 3 月に「時の鐘通り」と命名されました。

近くの JR 新日本橋駅出口に江戸時代を通してオランダ商館長一行が江戸参府の

折の宿舎であった「長崎屋」があり、川柳にも「石町の鐘はオランダまで聞こえ」と詠われ、江戸市民に慕われていたそうです』と記載。

[十思公園内 石町 時の鐘]

中央区小伝馬町 5 最寄駅 日比谷線 小伝馬町駅

「十思公園」とは小伝馬町交差点近くの「伝馬町牢屋敷跡」で吉田松陰の終焉の地です。処刑の合図は日本橋石町の鐘で執り行われており、処刑のある日はわざと数分遅らせて撞く「情けの鐘」ともいわれたそうです。

幕府公認最初の「石町 時の鐘」は昭和 5 年 (1930 年) ここに建てられたコンクリート鉄筋造りのモダンな鐘楼 (写真下左) に移され、現存しています。

現在は大晦日の除夜の鐘のみ鐘撞きが行われているとのこと。
表題右の写真は「石町の鐘」（写真下右）の縮小版です。



〔浅草寺 時の鐘〕

台東区浅草 2-3-1 最寄駅 銀座線 浅草駅

「浅草寺境内弁天山の弁天堂」（写真下左）脇に鐘楼（写真下右）があります。「時の鐘」の始まり時期は正確ではありませんが、近くにあった「新吉原」では「朝の別れを惜しむ鐘」として聞かれていたそうです。





この鐘は現在も毎朝 6 時に役僧が撞き鳴らし、大晦日には「除夜の鐘」が点打されています。

説明板には「江戸時代に時報を知らせる役割を果たしていたのが時の鐘である。当初、江戸城内にあったが、江戸市街地の拡大に伴い、日本橋本石町にも設置。

更に浅草寺や寛永寺（上野山内）など 9 か所でも時を知らせました。鐘の大きさは高さ 2.2m、直径 1.5m 鐘銘によれば撰文は浅草寺別当権僧正宣存で、元禄 5 年（1692 年）8 月、五代将軍徳川綱吉の命により、深川住の太田近江大掾藤原正次が改鑄し、その費用として下総（現在の千葉県）関宿藩主 牧野備後守成貞が黄金 200 両を寄進した。この鐘は時の鐘として、あるいは浅草寺梵鐘として様々な文学作品も登場しているが、なかでも松尾芭蕉の名句は、あまりにも著名である。

「花の雲 鐘は上野か浅草か」

昭和 20 年（1945 年）3 月の東京大空襲で火を浴びたが無事に残り、今なお昔のその姿を見せている。なお、鐘楼は同空襲で焼け落ち、昭和 25 年（1950 年）5 月に再建されたものである」と記載。

「黄金 200 両は鐘の音色を良くするために鐘に鑄込ませた」といわれているとは初めて知りました。「弁財天」は音楽・音の神様だからか？でも芭蕉が貞享 4 年（1687 年）に詠んだ鐘の音は年代的に改鑄前の鐘のものと推察されるとのこと。

〔上野 時の鐘〕 台東区上野公園 4 最寄駅 JR 上野駅

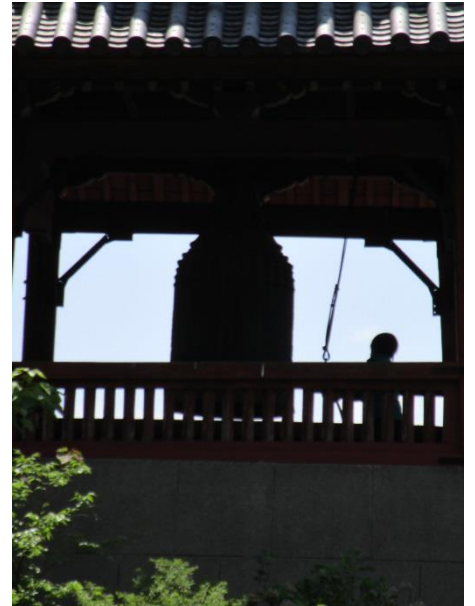


上野恩賜公園内の「上野大仏」の脇にあり、「大仏下の時の鐘」と呼ばれていました。

説明板には『芭蕉が詠んだ名句はこの鐘のことである。初代の鐘は寛文6年（1666年）の鑄造。銘に「願主柏木好古」とあったという。

その後、天明7年（1787年）に谷中感応寺（現在の天王寺）で鑄直されたものが現存の鐘である。正面に「東叡山大銅鐸」、反対側には「天明七丁未歳八月」、下に「如来常住、無有变易、一切衆生、悉有仏性」と刻まれている。現在も鐘楼を守る人によって朝夕6時と正午の3回、昔ながらの音色を響かせている』と記載。

寅次郎、後日の正午(昼九つ)に訪問して、鐘の音を聞きました。「ゴォーン」という音色は除夜の鐘とは異なる感じでした。撮影に夢中でいくつ鳴ったかわかりませんでした。当時の人は指を折って数えていたことでしょうか。写真右上は望遠でとらえた鐘を撞く人です。



上野寛永寺には本堂の近くに、もう一つ鐘楼堂がありました。梵鐘は寛永期(1624年～44年)に造られ、破鐘の響きがするというので、あまり撞かれなかったようです。この鐘楼堂の高欄には名工 左甚五郎の龍が彫られ、この龍が毎夜、不忍池の水を飲んだとの、いい伝えがあります。

〔市ヶ谷亀岡八幡 時の鐘〕

新宿区市谷八幡町 15 最寄駅 JR市ヶ谷駅

「市ヶ谷橋」で外堀を渡り、靖国通りに面した右側にあります。急な階段を上ると「市ヶ谷亀岡八幡宮」です。



「時の鐘」は寛永期（1624 年～44 年）に「八幡社」が市ヶ谷御門内からこの地に移転してから始めたとのこと。

市谷八幡は亀岡八幡、別当東円寺とも呼ばれ、現在は「市ヶ谷亀岡八幡宮」と呼んでいます。

「時の鐘」の場所は諸説ありますが、長い階段(写真上左)を上りきった頂上辺り（現在の社務所辺り）とされています。

鐘の破損や焼失で 20 年余りの中断時期もあり、奉行の大岡越前守に願い出、認可、再開、その後、スポンサーの施主が財政難に陥り、中止、60 年後、寄進があり再開、明治期の神仏分離で消滅と「波乱に満ちた時の鐘」とのこと。この鐘は町々から「鐘役銭」をとっていなかったようです。現在、鐘は築地本願寺の別院に移されたとの記録があるそうです。

〔目白下新長谷寺（目白不動）時の鐘〕

「目白下新長谷寺」は神田上水（神田川）の早稻田を望む目白坂上（現在の椿山荘近くの大洗堰の上辺り）文京区関口旧駒井町にありましたが、昭和 20 年(1945 年)5 月 25 日の戦災で焼失して、

「新長谷寺」は「金乗院」に合併して、廃寺となりました。

「不動明王」のみが移されましたが、鐘楼は再建されませんでした。



写真左は「大洗堰の由来碑」で、この上の崖辺りに目白不動「時の鐘」があったが、創設時期は不明とのこと。大洗堰とは家康が入府した直後に井の頭池を源流にし、善福寺池、妙正寺池の流れを落合で合わせ、関口で取水した日本初の神田上水です。

大洗堰で水位を上げ、上水路で水戸藩上屋敷（現在の後楽園一帯）に給水し、そこから地下を樋で神田・日本橋方面に給水したとのこと。

〔金乗院（目白不動）〕

豊島区高田 2-12-39 最寄駅 荒川線 学習院下駅

現在の「金乗院」門前（写真下左）の説明板には「目白不動堂（東豊山浄滝院 新長谷寺）は元和 4 年（1618 年）大和長谷寺第四世小池坊秀算

が中興し、関口駒井町（文京区）にありましたが、昭和 20 年 5 月の戦災により焼失したため、金乗院に合併、本尊の目白不動明王を移しました」と記載。鐘楼についての記載はありません。

写真下右は本堂と不動堂（本堂右の建物）です。



【こぼれ話】 お江戸の時刻

江戸時代の時刻は 1 日を 12 等分して子から亥まで約 2 時間を一時（いつとき）としました。但し、この 12 等分に合うのは春分と秋分の日だけで、太陽が昇る（明六つ）、また沈む（暮六つ）時間を基準とした変動時間で生活していたため夏（夏至では春分、秋分より約 2 時間長い）、また冬（冬至では春分、秋分より約 2 時間短い）一日でした。高価な蝋燭など買えない貧しい長屋に住む町人の一日は空が明るくなる明け六つ前から、暗くなる暮れ六つ過ぎまでが生活時間でした。

子	暁九つ	0 時		
丑	暁八つ	2 時		
寅	暁七つ	4 時		「お江戸日本橋七つ立ち」と旅に出立
卯	明六つ	6 時	日の出	午前
辰	朝五つ	8 時		
巳	朝四つ	10 時		
午	昼九つ	12 時	真昼	正午
未	昼八つ	14 時		
申	昼七つ	16 時		
酉	暮六つ	18 時	日没	午後
戌	夜五つ	20 時		
亥	夜四つ	22 時		
子	暁九つ	24 時	真夜中	

次回は お江戸の時の鐘-2 です。

平野 寅次郎 拝